

令和5年度第3回 国土交通省大阪航空局 総合評価等に関する委員会
審議概要

開催日及び場所	令和6年2月5日(月) (大阪航空局 会議室B・C)
委員	委員長 古阪 秀三 (立命館大学客員教授) 委員 鎌田 敏郎 (大阪大学大学院工学研究科教授) 委員 倉本 宜史 (京都産業大学経済学部准教授)
内容	<p>審議事項</p> <p>1) 神戸航空交通管制部空気調和設備工事 (技術提案のテーマ設定及び評価基準等の妥当性)</p> <p>2) 那覇空港等津波浸水早期復旧対策検討業務 (技術提案のテーマ設定及び評価基準等の妥当性)</p> <p>3) 「大阪航空局工事調達における総合評価落札方式の実施方針」 の改定について</p>
委員からの 意見・質問	意見・質問
	別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具 申内容	1)、2)及び3)について審議内容を了承

【議事要旨】委員からの主な意見・質問

審議事項 1)：神戸航空交通管制部空気調和設備工事

(質問) 騒音等に対する提案について、振動や粉塵は建物内で業務に支障が出ないようにイメージできるが、騒音は近隣の住民等への配慮も含めるのか、それとも周辺に建物がないので、建物内への支障だけを考慮した提案を求めているのか。

(回答) 航空管制官の業務に支障にならないかが非常に重要であるので、そこに対する技術提案を求めたい。近隣住人への騒音の影響というのはないものと想定している。

(質問) 騒音、振動、粉塵の様に個別に提案をするのは可能だと考えるが、「工事期間中の室温管理を考慮した空気調和設備工の更新手順及び方法」については個別の提案がなされることを想定されているのか。

(回答) 機器ごとに提案が出てくることを想定している。

審議事項 2)：那覇空港等津波浸水早期復旧対策検討業務

(質問) 那覇空港だけでなく高知空港や宮崎空港でも活用できる提案も含めて評価されるのかそれとも今回は那覇空港に特化した、高知空港や宮崎空港には展開できないような提案でも評価するのか。

(回答) 那覇空港に限定して検討するので、評価自体は那覇空港の提案を評価するが、検討した内容はガイドラインとして策定していくので、その際には他空港でも活用できるようにする。

(質問) ガイドライン策定に向けた基礎的検討を実施するというのは、ガイドラインを策定するまでなのか。

(回答) 津波対策のガイドラインがないということもあり、課題の抽出やハード面、ソフト面での対策を整理する。様々な対策案があるので委員会を開催し、識者の経験も踏まえてそれを詰めていく。最終的には他空港でも活用できるガイドライン策定を目指しており、策定までの基礎検討をしていく。

(質問) ①「予防的に事前施工する各種ハード対策の最適配置を検討するうえでの工夫及び提案について」と②「早期復旧目標（セキュリティラインの72時間以内での確保）を達成する方策における配慮事項について」があるがより端的な内容にする方がよりどのような検討をしたらよいか伝わりやすいのではないのか。

(回答) ①では最適配置を、②では早期復旧目標を達成する方針を提案として求めている。今回は仕様書に提案を求めるプロポーザルなので、仕様書に反映される中身として、受け皿を広く設けている。

審議事項 3)：「大阪航空局工事調達における総合評価落札方式の実施方針」の改定
について

(質問) 登録基幹技能者評価型の内容について、下請け業者に配置する場合に限って加点される理由について教えていただけないでしょうか。また、これまで提出していた資料に追加で下請けに関する資料を提出されるということですが、それによって負担が増えるということはないのでしょうか。

(回答) 今までもやっていたことをより掘り下げて、加点していこうという取り組みになります。今でも下請けを使う会社は、申請時点でこの会社を使いますというを出してきますので、負担は変わらないと考えております。

(質問) 「若手技術者登用促進」という名前について、この制度で若手だけでなく女性の参画も期待されている中でなぜ「若手」と限定された書き方をされているのか、これは「次世代」とかではダメなのではないでしょうか。

(回答) 若手の技術者が少なくなっている中で、若手を入れようということで若手という表現になっております。
※考察の結果「次世代」へ修正することとした。

以 上